



コタンメール 50号

平成 21 年 12 月 17 日 発行



サッポロ タ 博物館 エク！（博物館が札幌にやってきた）



札幌圏の人々に当館の活動を広く知っていただくため、12月9日に「アイヌ民族博物館フェア・イン・札幌」を開催しました。札幌プリンスホテル国際館パミールを会場に、約230名の来場者に3時間にわたって当館のメッセージを伝えました。今回の移動博物館では特に教育関係者をターゲットにおき、第1部では、当館のコンセプトや学校向けの教育プログラムを紹介し、来場者全員でのムックリ演奏体験モニターを通じて、体験学習の魅力を紹介しました。

第2部では、今秋にユネスコの世界無形文化遺産となった歌と踊りを中心にプログラムを組み、当館職員、および当館で芸能を学んでいる担い手研修生、Team Nikaop によるカムイノミ、語り物口演、楽器や踊りなどの公演を行いました。重文指定演目に加え、トンコリヘチリやタブカラなど調査研究によって復元した演目を披露し、当館事業の柱である精神文化・アイヌ語・芸能の研究と伝承事業を紹介しました。最後は、会場全体で踊りの輪を作り、交流をしました。

来場者からは「感激した」という声や、舞踊のワークショップ、演目の内容などについて熱心な質問もありました。1月には函館(11日)とニセコ(26日)でも開催します。（北原次郎太）



・研修生の木村君由美さん 美幌の物語を口演



・ヤイカテカラとトンコリヘチリ



クリスマス ピリカ！（メリークリスマス！）

12月16日、博物館では、講師に安田千夏さんを招き、担い手研修生のための講座「クリスマスリース作りを通して学ぶアイヌ語」が開かれました。

ツルウメモドキやブドウヅルを土台に、マツボックリやドングリで作ったフクロウ、オオウバユリの^{がく}の飾り、シナノキの繊維をリボンにかたどり、フッキソウやトドマツの葉で緑色を、ホウノキの実やケヤマハンノキの実で赤色のクリスマスの彩りを出し、各自が自分のデザインで特色のあるリースを作り上げました。

完成したあと、それぞれが、自分の作品の材料や製作の意図を説明しましたが、その際植物名はアイヌ語で呼び、リースという現代の用具を作りながら自然にアイヌ語名を教えるという、アイヌ文化の普及や伝承の一つの方法を学習しました。

この方法は、白老町内の小学校で実践されているものだそうで、研修生にはとても参考になる授業となりました。（きだみずえ）



材料に使用した植物のアイヌ語名を言いながら自ら製作したリースを発表

メタボックルに聞こう

Q：メタボックルさん、イランカラブテ。いつもながら楽しそうですね。

メ：うむ！今日は特別！いよいよコタンメールが50号を迎えたのだルウエネ！

オノノー！！オノノー！！（ばんざーい！！ばんざーい！！）

まさにオボン ソンカチ ウテカンパ（盆と正月が一緒に）ちゅうやつだるウエネ！

思い起こせばシネブ(1号)、トゥブ(2号)、レブ(3号)、イネブ(4号)、アシクネブ(5号)、イワンペ(6号)、アラワンペ(7号)、トゥペサンペ(8号)、シネペサンペ(9号)、ワンペ(10号)、シネブイカシマワンペ(11号)…いろんな事があったルウエネ。くく…

Q：メタボックルさんのコーナーは最近でしょ。ところで20号は何て言うんですか？

メ：20はホッ。20号はホッネブ。40はトゥホッ（ホッが2つ）。30はワンペエトゥホッ（あと10でトゥホッ）というルウエネ。

Q：難しいですねえ。えー、では50号？

メ：ワンペエレホッペ。さてでは、この記念すべき日を迎え、ギャラUPの交渉に入りたいと…

Q：さあさあ、それでは体に気をつけて、100号目指して今後も頑張ってください。

メタボックルさん、イライライケレ。

メ：ねー、ちょっとー。ヌーヤン（聞いて）。エカシ イエヒ ヌーヤン（爺ちゃんの話聞いて）。



メタボックル：身長 50mm 腹囲？ 出身？ 年齢？
愛読書 「nonno」